☆ 政府の行為による戦争の惨禍が・・・

― 敗戦から68年、戦争を知らない若者のみなさんに―

めぐり来る敗戦記念日

- ◆ 今年も八月十五日の敗戦記念日がめぐってきます。この日を契機として日本に、世界に類のない絶対的戦争をしないという平和憲法が生まれました。
- ◆ その前文には「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないやうにすることを決意し」と、平和国家建設の決意が込められています。

自民党改憲案に見る決意の欠落

- ◆ ところが自民党の改憲案前文にはこの決意が削られて無くなっていきます。あの戦争を起こしたことへの民族としての反省も見られません。
- ◆ ですから、また戦争の出来る国に戻そうということになり、国防軍（＝軍隊）を持つて、戦争の準備をしようという内容になっています。

安倍首相の歴史認識と若者

- ◆ 安倍首相は先の大戦は侵略戦争と言えるのかという認識を示しています。この認識は若者の意識に重大な変化をもたらしています。
- ◆ 若者達の意識は「いままであの戦争は間違った戦争だったと教えられて来たが、どうも違うらしい。ならば今度はリベンジだ」と変化しているようです。
- ◆ 若者に復讐という言葉を使いベンジと表現することを誰が教えたのでしょうか。リベンジという言葉を使うと戦争はスポーツとなり復讐はゲームと違ってしまふのです。恐ろしいことです。

若者のみなさんへ

- ◆ 戦争はスポーツでもゲームでもありません。戦争で命を落とすのは戦争を始める政府の人達ではありません。あなたたち若者なのです。
- ◆ 若者のみなさん、敗戦記念日を迎えるにあたって、落ち着いて戦争のこと、命のこと、そしていまの平和憲法のことを考えてみませんか。

二〇一三年八月十一日(日) 第五五八回憲法を守る平和行進

★ 月例護憲平和行進 毎月第二日曜日・午後一時・浜松市役所正面玄関集合

★ 2013夏

日時・場所

平和のつどい in 浜松 のご案内 (浜松・憲法九条の会主催)
8月15日(木) 14時～ 浜松市地域情報センター

講演

安倍政権下における「憲法改正」の歴史認識を
否定する暴挙を問う

講師

瀬瀬 厚 (こうけつ あつし) 山口大学副学長・政治学博士

〔憲法前文抜粋〕

【現行前文】政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないやうにすることを決意

【自民草案】日本国は、長い歴史と固有の文化を持ち、国民統合の象徴である天皇を戴く国家